

# 令和 2 年度 事業 報告 書

(令和 2 年 4 月 1 日～令和 3 年 3 月 31 日)

## 1 事業の状況

今年度は、新型コロナウイルスの影響で、平安書道研究会の 5 月開講が出来ず、6 月（第 843 回）からの開講となった。その上、会場である東京国立博物館の借館がはっきりせず、10 回とも千代田区神田・一ツ橋の日本教育会館での実施になった。また、コロナの影響は受講生の募集、連合書道展の開催など多くの場での影響が顕著であった。

### 1. 書道文化の普及（第 4 号事業関係）

#### (1) 書道文化の普及のための春敬記念書道文庫収蔵品の貸し出し

##### 1. 平安書道研究会（主催・一般社団法人書芸文化院）令和 2 年 6 月～令和 3 年 3 月

毎月 1 回、日本教育会館を会場に、第 843 回～第 852 回を実施した。各回テーマに沿った古筆を 5～6 点ずつ露出展示している。

#### (2) 写真の掲載許諾

1. (有)書芸文化新社発行の『古筆カレンダー2021年』に「西本願寺三十六人集 石山切(伊勢集)」など 5 点の掲載を許諾した。

2. 一般財団法人日本書道美術院発行の『書道美術 2020 年 7 月号』に伝西行筆「未詳歌集切」など 4 点、『書道美術 2021 年 1 月号』に伝小野道風筆「絹地切（紅線毯）」など 5 点の掲載を許諾した。

3. 教育図書発行の高校書道教科書『書道Ⅰ』（令和 4 年 4 月発行）に伝空海筆「隅寺心経」など 3 点の掲載を許諾した。

4. 東京書籍発行の高校書道教科書『書道Ⅱ』（令和 5 年 4 月発行）に藤原佐理筆「国申文帖」など 2 点の掲載を許諾した。

5. 光村図書発行の高校書道教科書『書道Ⅱ』（令和 5 年 4 月発行）に藤原佐理筆「国申文帖」の掲載を許諾した。

6. 三徳庵発行の月刊誌『茶道の研究 令和 2 年 10 月号』に伝藤原行成筆「仮名消息」など 2 点の掲載を許諾した。名児耶明先生の「続・書に親しむ」という連載企画の本文挿図に使用。

7. 月刊誌『目の眼』に伝藤原行成筆「大字和漢朗詠集切」の掲載を許諾した。

8. 独立書人団の広報誌第 128 号に伝藤原行成筆「古今集切(こひすれは…)」の掲載を許諾した。

9. 原田凍谷著『顔真卿の書法一技法と表現一』に顔真卿「顔氏家廟碑」など 3 点の掲載を許諾した。

この他に学術書への掲載を無償で許諾。

東京国立博物館『MUSEUM668 号』誌に掲載の古谷稔先生執筆の「書道史から見た『秋萩帖』再考」に伝藤原佐理筆「綾地歌切 なつきぬと」など 2 点の掲載を許諾した。

## 2. 書道に関する展覧会の開催（第5号事業関係）

### (1) 「第71回連合書道展」、「第34回関東女流書展」の開催

書道の奨励・育成を目的にした「第71回連合書道展」を令和2年9月1日より8日まで東京都美術館において開催した。参加団体は12団体。総出品点数は471点（前回506点）。

観客入場者数4240名（前回6481名）であった。今年度は席上揮毫の開催を行わなかった。

また、特別企画として、「第34回関東女流書展」を開催した。関東地方を代表する女流書家による展覧会で、漢字・仮名・新書芸などの各部門に198点（前回197点）の出品があった。

また、連合書道展の一環として平成30年より行っている平安書道研究会受講生による「臨書コーナー」は今回で第3回目であったが、19名（前回34名）の出品となった。

## 3. 書道専攻者の養成（第7号事業関係）

### (1) 平安書道研究会の開催

昭和25年から、毎月1回古筆を出陳して鑑賞し、日本書道史研究に必要な専門的内容を学ぶ平安書道研究会を開催。しかし、令和2年4、5月の2回、新型コロナウイルスのため、開催出来なかった。前年度の3月を含め3回分の補充を「特別聴講券」として該当する受講生への配布を行った。この「特別聴講券」は該当する本人以外への譲渡も可能とし、周辺への拡大も意図したので、その効果はあった。現在のところ30名ほどの利用者がいる。

「臨書実技講座」は令和2年9月27日に本橋郁子先生と大賀晴苑先生、渡辺貴彦先生の3名の講師による講座。受講生14名が出席し実施。平安書道研究会での添削指導とは違った指導を受けることは出来、毎回好評である。

平成29年5月に入学した第61期生37名が令和2年4月に3か年の全課程を終えて卒業した。令和2年度の第64期入学生は8名であった。今期は、コロナの影響で思うように募集が進まず、その上に在校生の進級も進まず、特待生の辞退などもあり、全体に低調に終わった。

## 4. その他

### (1) ホームページの充実

ホームページの認知度も上がり、受講生からの反応も目立つようになった。また、新規募集についてもホームページからの申し込みが徐々にではあるが増えつつある。今後も内容のより充実を図り、受講生のみならず一般への重要なPR用ツールとして活用していきたい。

URLは <http://shogeibunkain.jp/> である

### (2) 講師の先生を囲む会の開催

昨年に引き続き、今年度もコロナの影響を勘案し中止にせざるを得なかった。

以上